

会報

無肥研だより

第20号

2023年11月15日 発行



見学会での堀江理事長(右)と白岩副理事長(左)

今回は8月27日に開催いたしました無施肥無農薬栽培圃場の見学会と、日数は経ってしまいましたが、無施肥無農薬栽培巖田建商店が、4月22日開催のアースデイのイベントに参加し、ブースを出されましたときの様子をご報告いたします。

1. 無施肥圃場見学会 (2023年8月27日)

堀江武理事長、白岩立彦副理事長をはじめ25名の参加者で、無肥研小倉試験圃場(京都府宇治市)と会員の茶園、上嶋爽緑園(京都府綴喜郡井手町)、かたぎ古香園(滋賀県甲賀市信楽町)を巡る圃場見学会を開催しました。

(1) 小倉無肥研試験圃場(京都府宇治市小倉)

小倉圃場は2003年より無施肥無農薬栽培(以下「無施肥栽培」いう)のO水田(25a)と滋賀県栗東町(現栗東市)にて1951年より無施肥栽培を継続していた水田の表土を移設したR水田(10a)および畑(10a)からなっており、水田内には無肥研による①多数回中耕除草の時期・回数の違いが生育・収量に及ぼす影響、②冬期湛水・中干しの有無が生育・収量に及ぼす影響、③無施肥栽培と慣行栽



培が根の生育に及ぼす影響について、それぞれ試験区を設けて調査しています。また、④奈良先端科学技術大学院大学の試験区では、4週間に一度サンプリングを行い、大学にて微生物などの調査を行っています。当日は無肥研の担当者から調査の概要と経過報告があり、参加者は堀江理事長、白岩副理事長とともに圃場を回り、熱心に質問をされていました。調査結果は来年3月の研究報告会で報告させていただきます。

畑	R水田	O水田
10 a	10 a	25 a

小倉試験圃場 略図

(2) 上嶋伯協氏茶園(京都府綴喜郡井手町)

上嶋様は1998年より無施肥栽培を実施・継続されまして、現在、全経営茶園面積:950aのうち、無施肥:50a、有機:270a、慣行:630aの割合で栽培されています。無施肥栽培の茶園は相楽郡和束町と綴喜郡井手町の2ヶ所にあり、そのうち綴喜郡井手町の20aでは1998年から25年間に亘って無施肥栽培を継続され、煎茶、ほうじ茶を生産されています。栽培品種はコマカゲです。例年の収量は、慣行栽培の60%程度で、年4回程手取りで除草を行い、4~5年前からは乗用型摘採機で収穫されています。



日照時間が短く湿った場所で発生しやすい炭疽病とチャノミドリヒメヨコバイという虫が、年によって付くことがあるくらいで、他の病害虫によって出荷出来なかったことはなく、収量の増減はあまりなく安定しているとのことでした。

(3) 片木明氏茶園（滋賀県甲賀市信楽町）

片木様は全経営茶園面積：280 aのうち、無施肥：20.7 a、有機：259.3 aの割合で栽培されています。1975年より植物性有機肥料を使用した無農薬有機栽培を始め、2005年より茶園の一部を無施肥栽培に切り替えて実施されています。開始当初は完全な無施肥栽培には懐疑的であったものの、まずまずの収量があり、2～3年経過すると安定して来たそうです。茶葉の生産量の目安として、無施肥栽培での収量は慣行栽培の約70%とのことでした。空気中の窒素、土壌中の菌類の活動などによって十分な養分を得ているとお考えでした。月一回の株間の除草作業は全て手作業で行っておられます。



害虫については、例えばクワシロカイガラムシという、木に付着して真っ白にして枯死させる虫があり、慣行栽培だと6～10月に3回も発生するところがありますが、片木様の無施肥茶園では全く見られなくなったとのことでした。また、慣行栽培のお茶は残留農薬の量が多く、肥料の窒素成分が河川に流出して環境や人体に害を及ぼすなどの問題があり、その点からも無施肥栽培の価値を広めていく活動に期待されておられました。



なお、上嶋様・片木様の両方の茶園でも無肥研の調査が行われており、担当者から概要と経過の説明がありました。茶生産においては多量の農薬・肥料が使用されますが、健康食品として近年注目されていることも踏まえると、お茶こそ無施肥栽培が望ましいと考えられます。茶生産における無施肥栽培の特徴を明らかにするため、重要病害虫の被害状況についての茶樹病害虫巡回調査ならびに害虫以外も含めた虫の発生量の調査を実施しています。

上嶋・片木様両茶園とも害虫の発生量は、慣行栽培や有機栽培と比較して少ない傾向にありました。炭疽病については、両茶園とも増加傾向が見られましたが、新芽が出

始める頃より減少し、収穫時期には影響はほとんどないと考えられるとのことでした。

見学会の最後に堀江理事長から以下のとおりコメントを頂きました。

無施肥栽培の茶園であっても、一般慣行栽培の茶園とそれほど遜色なくお茶が立派に育っていることが印象的でした。お茶の有機・無施肥栽培を始められた先駆者として、ご苦勞を重ねられた茶園を実際に見せて頂き大変勉強になりました。環境を破壊せずに、それと調和する素晴らしい栽培法であり、普及のためには品質も含めてその価値を更に研究し、社会にアピールしていく必要があると強く感じました。小倉の水田では様々に工夫をした地道な研究を行っておられる様子が見て取れました。この水田は長年無施肥無農薬栽培を継続しているところに大変な価値があり、この他に無い貴重な圃場で得られた研究成果を社会に発信し、農家の経営に役立つような普及活動をしていく必要があると思います。

今回は無施肥無農薬栽培を継続している水田・茶園を実際に見学することができるという貴重な機会でした。生育状況の観察の他、お茶農家としての経営面のお話なども伺うことができ、消費者への認知拡大や栽培法の普及についてなど、今後の当会の活動の方針とするべき点も感じられました。

2. アースデイ in 京都 2023 に参加して

毎年、4月22日は地球のことを考え、行動する日、地球の環境保護への支援を示す日、「Earth Day = 地球の日」として、1970年にアメリカ合衆国で始まりました。現在では190を超える国と地域で、約10億人が参加するイベントとなっています。日本でも第1回アースデイが1990年に開催され、今では全国各地に広がっています。京都市でも4月22日、23日の両日に平安神宮の傍にある岡崎公園で開催され、多くの人で賑わいました。



近年、地球規模で環境問題等の解決を目指す活動（SDGs）や、農水省でも将来にわたって持続可能な食料の安定供給をめざす、「みどりの食料システム戦略」が令和3年5月に策定されました。無肥研が行う無施肥無農薬栽培による環境保全型農業の普及・啓発活動も少しずつではありますが、注目を集めるようになってまいりました。無肥研が指定する専売店であり、無施肥無農薬栽培巖田建商店がアースデイのイベントに参加し、ブースを出されました。そのときの様子を報告していただきます。（以下ご報告）



当日は、無施肥無農薬栽培の冷茶を試飲していただき、抹茶・煎茶・ほうじ茶・紅茶などの他にも、甘夏・新玉葱・春大根など旬の野菜の販売を通じて、無施肥栽培の素晴らしいこととお話させていただきました。小さなお子様連れのご家族にお茶の試飲をお勧めして、慣行栽培のお茶というのは驚くほど多くの肥料・農薬を使用し、茶葉の洗浄工程がないままに、湯を注ぎお茶を抽出するため、農薬は洗われることなく、知らないうちに体の中に入ってしまうが、無施肥無農薬栽培では、そういう心配が一切ないこととお話させていただきました。

例えば無施肥無農薬栽培の茶殻を佃煮のように煮付けても、何の不安もなく美味しく食べることが出来ることもお話させていただくと大変喜ばれて、「お茶がそんなに怖いとは知らなかったので、知ってしまうともう飲めません」と驚いておられました。他にも「慣行栽培のお

茶は怖いので飲みません。もちろん、うちの子供たちはお茶を飲んだことがありません。水を飲んでます」という方も複数名おられました。また、煎茶道をされているというお客様は、ある流派の先生は「慣行栽培のお茶は肥料の味がする」と仰っておられるとのことでした。中には安全な農作物を求めるには1品目、1店舗ごとに使用している肥料や種子などの確認をしておられるというお客様もおられ、「無肥研のように認証制度を定め、専売店で販売するというのは、まさに私たちが求めていたサービスです」と仰る方もおられました。その方は、スーパーマーケットで買い物をするように無施肥無農薬栽培の農作物をいつでも気軽にネットで買うことができるサービスの充実を願っておられました。他にも京都市環境保全活動推進協会の方や、土壌調査などを行っている方、自然栽培の食品店のオーナーの方など様々な方が、私たちのブースに足を止め、展示していた NPO の活動パネルを興味深くご覧になり、こちらの説明に熱心に耳を傾けておられたのが印象的でした。



今回、ブースを出して、冷茶の試飲をさせていただいたことで「おいしい、こんなに簡単にできるの」と言っていただき、多くの方に無施肥無農薬栽培を知っていただくことが出来るとともに、いろいろな要望も聞かせていただきました。コロナ前と比較すると、消費者の皆様健康志向が益々高まり、安全・安心な作物を探しておられる方が非常に多くおられました。しかし、実際にはほとんどの方が無施肥無農薬栽培をご存じなかったもので、少しでも早く、一人でも多くの方にこの栽培法を知っていただけるように、今後も多くのイベントに参加して積極的に普及活動をさせていただきます。今回の出店に際しご協力を下さいました皆様有難うございました。

(無施肥無農薬栽培巖田建商店 巖田早映氏)

★ 今後の行事予定

総会・研究報告会・懇親会 2024年3月17日(日) 予定

午前中は正会員の皆様にご出席頂き、当会の前年度の活動結果並びにその結果を踏まえた次年度の事業計画や活動予算等をご審議頂く会員総会を開催いたします。

午後は会員・非会員に関係なく、どなたでもご参加頂ける当会の事業の柱であります、無施肥栽培の調査研究の成果をご報告させていただく研究報告会を開催いたします。また、研究報告会につきましては、会場にお越しになれない方にも Zoom を用いたオンラインによる参加も計画しております。

なお、引き続きまして試食懇親会も併せて計画しております。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、E-mail でお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。
(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

【認定NPO法人】特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

事務局 TEL : 075-751-0347 FAX : 075-334-8058

E-mail : bureau@muhiken.or.jp URL : <https://muhiken.or.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/muhiken>